ワークショップ・フォーラムの記録

2010 年 3 月　作成：最上川流域と庄内浜の自然と漁文化を愛する市民団体連絡会

○庄内町清川：「清川・立谷沢の舟運の歴史と川漁文化を訪ねて」

・内容

大学コンソーシアムやまがたと連携して実施。拠点となる最上川学推進センターの開所式、地元案内人や川漁師による最上川舟運、羽黒古道、川漁文化に触れる学習会を行った。交流会では、地元ならではの最上川鍋（舟だまり鍋）を囲んだ情報交換を行った。学生・一般の参加（フォーラムと合わせて 131 名の参加者）があった。

・行程・内容

最上川学推進センター集合・オリエンテーション

羽黒古道散策→清川港町探検→最上川河畔見学

最上川学推進センターにて交流会

地元の川漁師、昔の船頭さん、地域の歴史に詳しい神主さんに案内をしていただきながら、川港清川、羽黒古道等の散策を行った。また清河八郎記念館では幕末期に活動した清河八郎の足跡を地元の館長さんに御講演いただいた。

立谷沢地区の炭焼き窯を見学

清河八郎記念館で系図について館長の説明

地元の文化財を見学する

清川の川港で船頭さんから現況説明

○最上川支流　小国川における川漁の知恵と技術から暮らしの文化を学ぶ

・内容

地元案内人や川漁師による小国川の川漁、山菜とりの文化に触れる学習会。交流会では、地元ならではの小国川鍋を囲んだ情報交換会を実施。1 日目は地元主催の子どもたちの川遊び体験にも参加し、子どもたちを川で体験するための注意点や地元の川漁師からアユ釣りについての技術や漁文化について手ほどきを受けた。

2 日目は地域調査を行い、地元住民の生活の知恵と技術を記録した。記録物は 10 月に地元で行われた関西の高校の修学旅行生受け入れプログラムに役立てられている。

・スケジュール

1 日目

11:00　舟形町生涯学習センター集合　オリエンテーション

13:00　小国川探検隊～最上川支流の川漁文化に学ぶ～

18:30　小国河畔で交流会

20:00　ホームステイ活動

2 日目

8:30　地域地元学調査

13:00　環境マップ作りと学習プログラム作り

15:00　終了・解散

地元の子どもたちとか遊び体験

投網についての話を川漁師さんに聞く

○離島の自然と文化から暮らしの知恵と技術を学ぶ～地元学実践活動～

・内容

地元案内人や海漁師による飛島の漁文化、自然、暮らしに触れる体験学習を実施。地元飛島小学校と協力して子どもたちとともに島の元気を作り出す学習カリキュラム作りに取り組んだ。また、飛島漁協女性部法木支部の女性たちと料理作りにも挑戦した。

調査活動の成果は、飛島小学校の島の魅力を引き出す学習カリキュラム作りに役立てられるように考えられている。NPO 法人里の自然文化共育研究所が仲介になって継続的な連絡調整と情報の蓄積を行っている。

・活動日程

8 月 7～9 日

飛島小学校の子どもたちを交えた地域学習のための調査を大学生たちとともに行った。

地元漁協女性部から提供を受けた魚を利用して、島の郷土魚料理を作り試食会を実施した。

地元の子どもと夜の海で夜行虫観察

10 月 14～16 日

森と海の産物を活用した創作料理の試食会を実施。

また、2，3 日目にかけては、地元の女性たちの指導のもとで、海漁の体験や魚のさばき方についてレクチャーを受けた。また、島の特産品である各種の干物の調理の仕方などについても、島外の参加者を含め実践的な勉強会を行った。

以上の活動を元に、22 年度以降は子どもたちや学生たちの現地体験プログラムを作成した。

島の歴史について説明を受ける

漁師さんに漁や集落の生業について話を聞く

○森と川と里の学習観察会～渓流の生き物観察と里山整備体験～（酒田市中野俣・松山）

・内容

中野俣川水辺観察、杉林間伐、里山保全活動、柿木上脱渋など、最上川流域の支流環境観察と周辺の森の保全活動を体験し、森と川と里のつながりを学ぶことをねらいとした。

当日は地元の活動団体である中野俣を元気にする会やプロジェクト外山のメンバーとともに、子どもたちとの生き物観察会や森の整備体験、野外活動の基本的なスキルの向上を目指したプログラムを展開した。

・日程

9月16日

9：00 現地集合（JR余目駅集合）

9：30 中野俣着 水辺観察調査

13：00 里山保全活動・観察会

18：00 公民館・夕食・聞き書き交流会

9月 17日

9:30 外山キャンプ場集合 車で移動

10:00 酒田市 旧松山 山寺フィールド着 杉林 間伐

13:00 午後の間伐

15:00 外山キャンプ場 車で移動 キャンプ

9月 18日

9:00 外山キャンプ場より 車で移動

10:00 酒田市 旧松山 柿の木上脱渋

13:00 キャンプ場片付け 清掃

15:00 外山キャンプ場 解散

杉林整備活動

地元の子どもと水辺観察会・調査

竹林整備活動

○川舟から最上川を学ぶ～最上川の伝統舟体験と河川づくりの今後を模索する～
（庄内町清川）

・内容

最上川の伝統川舟から川漁と暮らしの文化、河川環境の今後について地元川漁師や舟大工から学ぶことを目的に実施した。最上川流域でただ一人の舟大工である木村雄一さんや最上川流域の名川漁師の鈴木春男さんを迎えて、川を生業にしてきた最上川河畔の生き方について学び、今後の川をめぐる活動について意見交換を行った。

・日程　12 月 12 日（土）

10:45　JR 清川駅集合
11:00　最上川学推進センター着　オリエンテーション
13:30　河川散策会Ⅰ（舟大工による案内・川舟試乗）
17:00　情報交換会

12 月 13 日（日）

9:00　北月山荘発
9:30　最上川学推進センター着
河川散策会Ⅱ（川漁師による案内・川舟試乗）
12：00　昼食
13：00　振り返りワークショップ
15：30　終了

舟試乗会の様子

舟大工さんと川漁師さんを囲んで撮影

今回連携先 NPO が導入した舟
（木村造舟所製作）

○「みちのく最上川　芭蕉の舟下りの道をカヌーでたずねる」
（最上峡および庄内町清川・酒田市　）

・内容

芭蕉が下った最上川のルートは最上川舟運の要衝で、文化と物流の中心を担っていた。これらの歴史的背景を踏まえながら、現在の最上川流域の自然と文化的現状を巡見し、そこに暮らす人々の知恵や技術に触れ、これからの地域づくりや文化伝承の在り方について模索した。

市民団体や立命館大学の学生と最上川学サポーターの学生が 3 日間最上川においてカヌーを中心とする野外活動を行った。

・日程

１日目

11:00　オリエンテーション・昼食（本合海）
13：00　カヌー及び川舟準備
14：00　新庄市元合海を出発
　　八向楯→古口舟番所→対岸の沓食集落着
17：00　対岸沓食集落にキャンプ宿泊
　　夜学１「最上峡の自然と文化」

２日目

事前のカヌー安全講習
8：30　最上峡の自然観察会
13：00　乗船
15：30　清川港着
16：30　観音湯にて入浴（バスで移動）
18：00　最上川学推進センター着・交流会
　　夜学２「最上峡の舟運の歴史」

芭蕉乗船の地で記念写真

３日目

9：00　清河八郎記念館見学
10：30　酒田着　山居倉庫等見学
11：30　昼食
12：30　酒田発→山形空港へ

左・中央：最上峡での自然観察

右：山居倉庫の見学

○最上川学フォーラム

（1）概要

21 年度の活動報告と 22 年度以降の取り組みについて考えるという趣旨から「最上川流域の自然と暮らしを大学との連携から考える」を基調テーマに開催した。大学コンソーシアムやまがたによる討論会とともに、本団体からは当日の現地観察会を行い、活動報告を行った。また、２日目は環境省里なび研修会と共催で、流域文化を考える意見交換会を行った。

（2）日程

2 月 27 日（土）

10:00　現地観察会（最上川舟上観察と清川港視察）

13:30　活動報告

・最上川学概要報告

・最上川学サポーター「流域のみなさんと地元学に取り組んで」

・NPO 法人里の自然文化共育研究所「森里川海共育プラン」

・立谷沢川流域試行プロジェクト「かわまちづくりと清川の里」

14：15　討論「最上川流域の自然と暮らしを大学との連携から考える」

・中島勇喜（山形大学）・佐藤五郎（米沢中央高等学校）

・大川健嗣（山形短期大学）・阿子島功（福島大学）

※司会進行　下平裕之（山形大学）

15：30　パネルディスカッション「最上川からの学びを次世代に生かすために」

・沼澤正則（若鮎交流塾）・渡部桂一（庄内町立谷沢川流域振興係）

・上田美沙紀（山形大学・最上川学サポーター）・下平裕之（山形大学）

※司会進行　出川真也（山形大学）

17:00　終了

17:00　情報交換会・懇親会

19：00　移動・北月山荘にて宿泊

2 月 28 日（日）

9:30　里なび研修会（※オプションプログラム：環境省主催）

12:30　昼食

13:30　総括討議

14:30　終了・解散

フォーラムでは 21 年度度に大学コンソーシアムやまがたにおいて導入したテレビ会議システムを利用し、最上川学推進センターの他、山形市にある山形大学小白川キャンパス、新庄市にある教育研究センター、東京サテライトとも相互通信を行った。

○フォーラムプレイベント「最上川の舟上観察会」

当団体の企画により、地元の最上川第八漁業協同組合長鈴木春男氏の案内で最上川の川漁と周辺の観察会を実施した。清川の港に集合後、鈴木春男組合長の漁船と NPO 法人里の自然文化共育研究所が保有する調査漁船の２艇で出発。最上川唯一のラバーダムであるさみだれ大堰を経由して庄内平野への灌漑用水を供給する草薙頭首工までを舟上から見学した。また、参加者の中には最上川学推進センターの玉網を利用して、清川港周辺の生き物調べをして、サケの稚魚やスナヤツメ等を捕獲して地元指導者から生き物の特徴などの説明を受けた。

こうしたプレイベントにおいてフォーラム参加者へ最上川に対する理解の一助となる活動を行った。

最上川舟上観察会の様子

清川港周辺で今年孵化したサケの稚魚（参加者が捕獲）

・テレビ会議システムによるフォーラム運営

次年度大学側で導入しているテレビ会議システムを利用して授業やシンポジウムの開催に役立て全県の関係団体や大学等をつないで情報交流を行うことを計画している。今回のフォーラムではこのテレビ会議システムの利用を試みた。庄内町清川の最上川学推進センターを本会場に、山形大学小白川キャンパス、東京サテライト、新庄市の教育研究センターをつないでおこなった。また、開会に先立って、最上川の舟上にテレビ中継システムを利用して、最上川のライブ映像と実況中継を会場とサブ会場に配信した。

テレビ会議システムによるやりとり（山形会場からの発言を聞いているところ）

○活動参加者の感想等（一部抜粋）

（U さん・女性・18 歳）

清川に行ってきました。そこでの出来事を投稿します。まずテープカットから始まり、清川の歴史や文化を教えていただきました。バスに乗り、直接羽黒古道に行ったり、最上川に行って昔の漁などについて拝聴しました。

最上川では、だし風が吹くと漁がよく休みになったそうです。歓喜寺では、歴史人物のお墓についても教えてもらいました。

夜は、夕飯に清川の郷土料理をいただきました。さくらますやわらび、いわななどをごちそうになりました。地域の方々とも様々な話をして、至福のひとときを過ごすことができました。

2 日目はパネルディスカッションをしました。地域の方々やいろんな人たちが来てくださり、貴重なお話をたくさん聞くことができました。

とても内容の濃い２日間となりました。今回を期に、もっともっと学生同士が話し合って意見を出し合えていけたらいいと思いました。

（D さん・男性・30 歳）

目の前の校庭はまさに「海」

飛島小学校は休校状態が続いていましたが、今年度２人の児童を迎えて再開しています。７月～９月の夏季の期間に、島の自然と文化、暮らしから学ぶということをテーマに、地元学調査や学習プログラムを行うことを検討しました。今回の訪問では、船越校長先生との打ち合わせと、島の学校の日常の授業を参観させて頂きました。挙島運動会に向けての練習や音楽の授業では、海にちなむ歌などの発表を見させて頂きました。島の風土を生かした学習活動を学校でも模索しています。飛島学校との交流と学習の展開については、またこのウェブサイトでお知らせしていきます。また、今回一緒に同行した戸沢村角川、金山町田茂沢のメンバーは炭と海産物の物々交換交流のミーティングがありました。飛島は内陸の各地域との産品交流でも新たな展開を見せつつあることに可能性を感じました。

（I さん・男性・19 歳）

飛島というところに地元学をしに行ってきました。飛島は山形県にあるたったひとつの島であり、もともと様々な名前で呼ばれていて、飛島と呼ばれるようになったのは江戸時代になってからだそうです。飛島に着いて最初に気になったことは自転車などの金属が錆びていたということです。以前、海に近いところでは金属が潮風の影響で錆びやすくなっていると聞いたことがあったのですが、その話は本当だったのだなと思いました。また島にはコンビニなどはなく、便利な生活に慣れてきっていた自分にとっては不便で大変な体験でもあり、今の便利な生活に感謝することができました。地元学をしてみると漁に関係する行事が多かったように思います。漁では高級品であるアワビやトビウオなどが獲れるそうで、ご飯のときにこれらをいただきましたが、とてもおいしかったです。また、海が、泳いでいる魚が見えるほどきれいだったのですが、砂浜の一部にはゴミがたくさん流れ着いていました。ゴミを片づけるためには、例えばゴミの中には注射針などの危険なものも含まれているため専門家がいないとできないそうです。今回の地元学は島という特別な環境のためでしょうか、慣れない環境のなかでご飯をたべていくだけで精いっぱいだったため、納得のいく調査ができませんでした。そのため、次の機会にもっと飛島のことについて深く調査したいと思います。

（0 さん・男性・19 歳）

８月飛島で地元学をしてきました。

周りがきれいな海で囲まれていて、新鮮な魚介類がたくさんとれる。というようなイメージしか飛島に対して抱いていなかったのですが、実際調査してみると漂着ごみがあったりして、目で見ないと分からないことが多々ありました。また、私たちが大学生だと言うと漁師の人から注意を受けました。私たちではないのですが、大学生で飛島に潜りに来ている人達が船のそばにいると、スクリューなどがあるので危ないという話です。

飛島に着いてまず驚いたのは、陸地には飛島小学校の校庭はないということです。飛島小学校の校庭は目の前に広がっている海なのです。校庭が海だなんてうらやましいですよ

ね。私が飛島に行きたかった理由の一つは飛島で泳ぐことだったのですが、時間もあまりなく雨も降ってしまってので存分には泳げませんでした。残念です。

飛島が新鮮な魚介の宝庫という認識は間違っていませんでした。どの魚もすごくおいしかったです。トビウオのだしで食べた冷麦も最高でした。ただ、二日目の夜に体調が悪くなり、三日目の朝食の魚を食べられませんでした。これも残念でした。今度飛島に行ったときは体調を崩さないように気をつけて新鮮な魚介を堪能したいです。

（U さん・女性・19 歳）

鶴岡の三瀬という庄内浜に面した集落に地域調査をしてきました。今回は、ユースホステルに泊まり、山の散策や、海に行ったりしました。

ユースホステルのオーナー、良磨さんから山の中を案内していただきました。ホステルから一歩山の中に入ると、山椒などの薬草がたくさんありました。ブナの木もあったり、薬草の使用方法など、様々なことを教えていただきました。どんどん歩いて行くと大きな湖があり、そこは、映画の撮影にも使われたと聞きました。映画に使われるほどすばらしい自然があるのですが、一方では撮影を行うことで、山野草などが踏みつぶされたりして、自然が人によって破壊されていました。自然にとって、人の足はブルドーザー位の衝撃があるそうです。人はもっと自然に敏感になってもいいのではないかなと感じた瞬間でした。

湖の周りに歩ける道があったのですが、ある場所にブナの実がたくさん落ちていました。そのブナの実を食べられると聞いて、食べてみたところ、ナッツ系の味がしました。しばらくブナの実を探しまわりました。だんだん散策というより探検に近い感じがしてきて、とても楽しかったです。小学生の子供たちも散策すると聞いて、子供たちにとっ

ては、遊びの宝庫がたくさんあるのではないかと思いました。

午後からは散策。普段あまり見ることのできない海が近くにあってとても感激しました。鮭の遡上も見ることができました。思わず「頑張れ」と応援してしまいました！笑しばらく歩いていると、断崖絶壁の上に神社を発見！登りきって下を覗いてみると…足がすくみました（涙）何の神様を祀っているのでしょうか？やはり海関係なのかなぁ。次の日はまとめワークショップでした。三瀬に来たのは今回２回目だったのですが、こんなに詳しく調べることができたのは初めてで、たくさんの魅力を発見できました。三瀬はユースホステル裏の山や、海、川など、自然にあふれています。散策やワークショップをして感じたのは、山・川・海がそろっている地域はそう多くはないのではないかということです。環境学習をするには絶好の場所なのではないかなぁと思いました。

また、鶴岡ユースホステルでは、マクロビオティック体験をすることができます。玄米ご飯を食べながら、水のこと、農薬のこと、環境のことなどなど、私たちを取り巻く様々なことについて考え込んでしまいました。良磨さんから、もっと勉強したいと思います。三瀬にもまだまだたくさんの宝物があると思います。今後も三瀬について勉強していきたいと思います。